

IV. ごみ組成調査の結果

(1) 調査対象とした特定建築物の概要

調査対象事業所として選出した特定建築物15件の概要を表3に整理した。

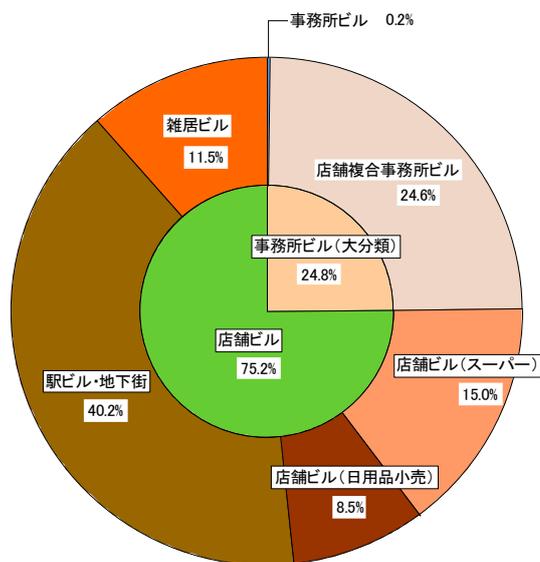
(2) サンプル量

サンプル量は表3に示すとおりである。合計サンプル量は1,540袋、約5,025kg、33,604リットルであった。また、業種別内訳(重量比)を図2に示している。

表3 サンプル量

業種		調査実施件数 (件)	袋数 (袋)	重量 (kg)	容積 (リットル)
大分類	中分類				
事務所ビル	事務所ビル	1	10	11.965	245
	店舗複合事務所ビル	2	437	1,238.710	8,376
	小計	3	447	1,250.675	8,621
店舗ビル	店舗ビル(スーパー)	3	266	755.525	5,749
	店舗ビル(日用品小売)	3	149	427.801	5,250
	駅ビル・地下街	3	526	2,014.747	9,475
	雑居ビル(娯楽・バー等)	3	152	576.615	4,509
	小計	12	1,093	3,774.688	24,983
合計		15	1,540	5,025.363	33,604

図2 サンプル量の業種別内訳(重量比)



注) 容積は、分類作業前のごみ袋単位で計量した値であり、一定の圧力をかけて測定した分類後の容積とは値が異なる。

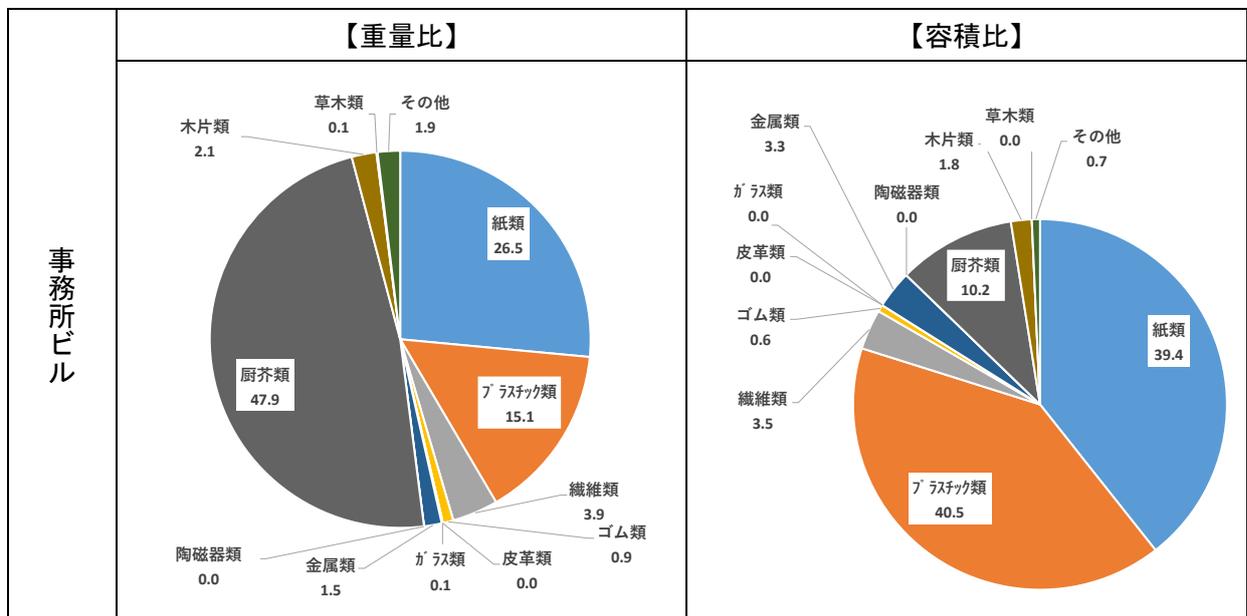
(3)ごみ組成調査結果の概要

以下には、業種大分類・中分類によるごみ組成調査結果の概要を整理した。なお、全業種合計のごみ組成は、特定建築物の用途別(業種別)に把握したごみ組成結果の単純合計である。

1)事務所ビル

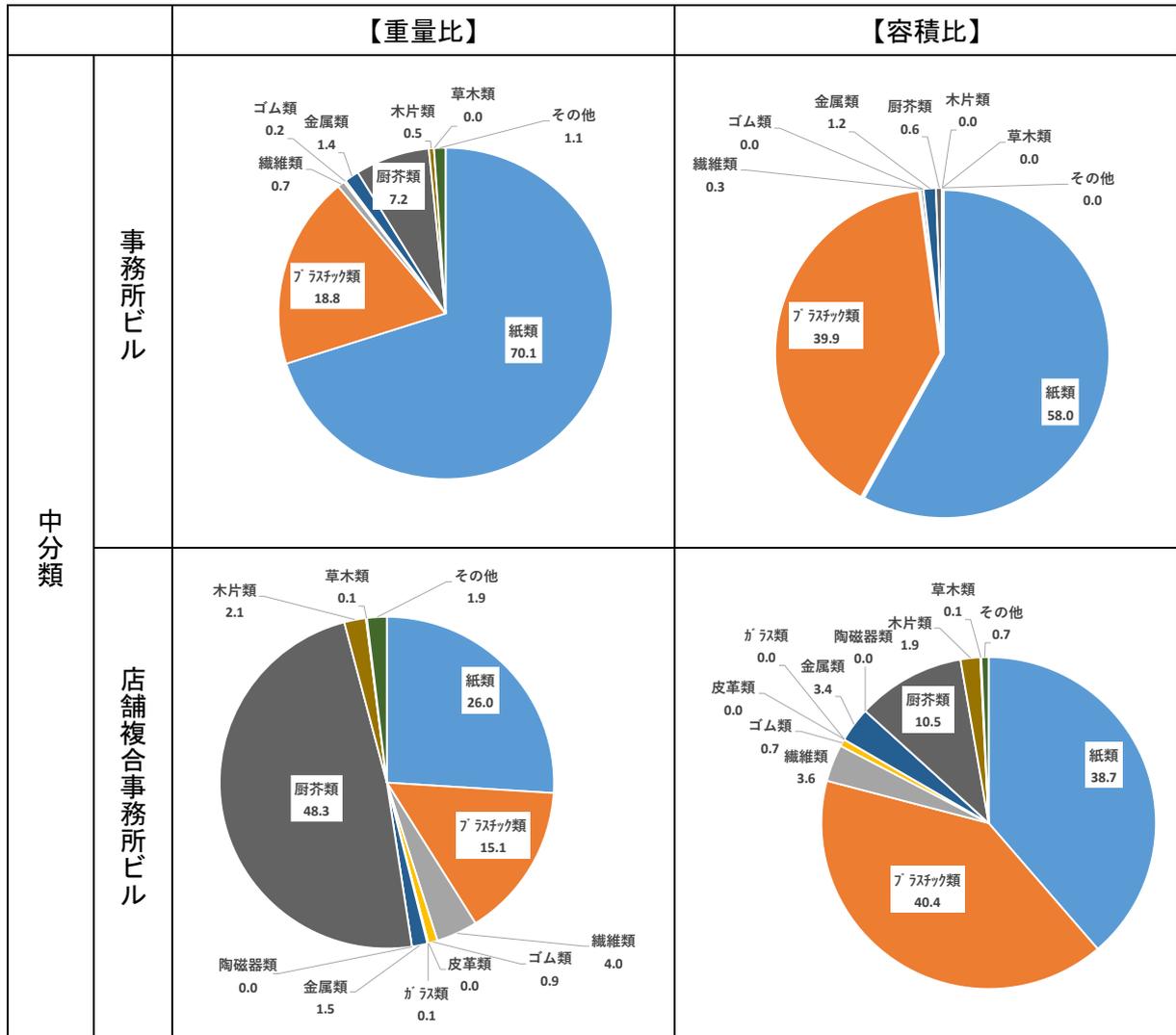
事務所ビル(大分類)は、事務所ビル、店舗複合事務所ビルの2つの中分類の業種からなり、図4(1)に示すように、重量比では、厨芥類が最も高く約48%、次いで、紙類が約27%、プラスチック類が約15%であった。一方、容積比ではプラスチック類が約41%、紙類が約39%、厨芥類が約10%であった。飲食店から排出される厨芥類の影響を受けて、業種全体としては厨芥類の割合が高い。

図4(1) 事務所ビル(大分類)



また、中分類による事務所ビルはテナントとして事務所しか入っておらず、図4(2)に示すように、重量比では紙類が約70%と大半を占め、次いでプラスチック類が約19%であった。容積比では紙類が約58%、プラスチック類が約40%と全体の約98%を占めている。店舗複合事務所ビルではテナントとして飲食店やコンビニ、雑貨屋等が入っており、事務所ビル(中分類)と組成は大きく異なっている。重量比では厨芥類が約48%と約半分を占め、次いで紙類が約26%、プラスチック類が約15%であった。容積比ではプラスチック類が約40%、紙類が約39%であった。

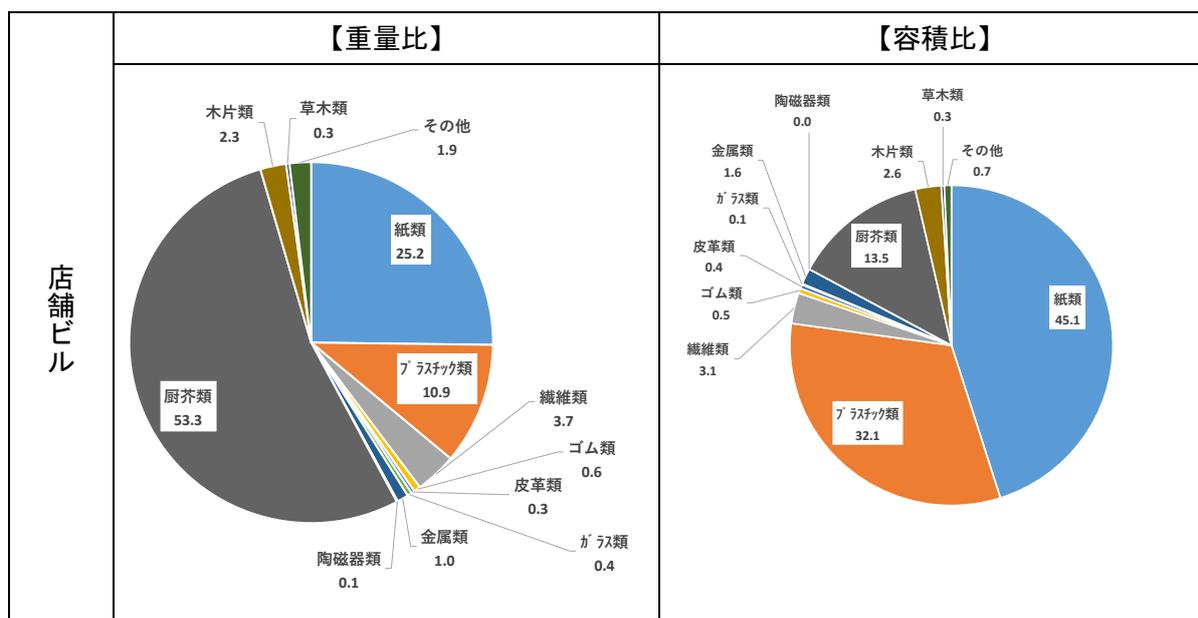
図4(2) 事務所ビル(中分類)



2)店舗ビル

店舗ビル(大分類)は、店舗ビル(スーパー)、店舗ビル(日用品小売)、駅ビル・地下街、雑居ビルの4つの中分類の業種からなり、その組成は図5(1)に示すように、重量比では、飲食店やスーパーの手つかず食品や食べ残しの影響を受け、厨芥類が約53%と過半数を占めた。次いで客に出されるおてふき等の使い捨ての紙など紙類が約25%、プラスチック類が約11%であった。容積比では紙類が約45%、プラスチック類が約32%、厨芥類が約14%であった。

図5(1) 店舗ビル(大分類)



中分類の店舗ビルは図5(2)に組成を示している。

中分類の店舗ビル(スーパー)は野菜の外葉や売れ残り等の厨芥類が約46%であり、紙類は約32%、プラスチック類は約8%であった。容積比では紙類が約51%と過半数を占め、プラスチック類が約25%、厨芥類が約15%であった。雑貨屋や家電量販店が入る店舗ビル(日用品小売)では、重量比で紙類が約49%、テナントとして入っている飲食店等からの厨芥類が約24%であった。容積比では紙類が約63%、プラスチック類が約29%であった。飲食店が多く入っている駅ビル・地下街では、調理過程で排出される皮やヘタ、作りすぎた食材、客の食べ残し等の厨芥類が、重量比で3分の2程度となる約64%を占めていた。次いで重量比で、紙類が約18%、プラスチック類が約10%であった。酒類の提供を行う飲食店や娯楽施設が多く入っている雑居ビルでは、主に飲食店からの厨芥類が約46%であり、紙類が約24%、プラスチック類が約15%であった。また、酒類のびんなどのガラス類が約2.2%と他と比べて多かった。

図5(2) 店舗ビル(中分類)

